

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan1 “人が輝く”教育の充実
施策の方針	
■未来を担う子どもたちの健やかな育ちを地域一体で支援し、本町ならではの特色を生かした教育の展開によって、感性豊かに未来を生き抜く人材、ふるさとに愛着を持って地域と関わり新たな価値を創造できる人材を育成します。 ■町外の高等学校への進学者も含めて、高校生が地域を理解し、地域と関わる機会を充実し、地域において新たな価値を創造できる人材の育成を進めます。 ■ライフステージに応じた学びのニーズに応え、地域参画を支援するため、幅広い学びとつながりづくりの機会を支援します。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末実績	R5年度実績見込み	達成状況見込み	説明
◇コミュニティスクールで学校と関わりを持った住民	150人	224人	200人	○	町で把握
◇全国学力学習状況調査で正答率が全国平均の5割に満たない児童生徒の割合	10%以下	12%	20%		全国学力学習状況調査
◇鷹栖町の好きなところを2つ以上書くことができる子どもの割合	90%	-	-		調査未実施
◇ふるさと共育プログラムの構築	構築	未構築	未構築		これまでの試行期間を踏まえてR6に構築見込み
◇高校生の新たな居場所の創出	実施	未実施	未実施		R3試行を踏まえ、実施手法を再検討
◇高校生がボランティアやインターンとして、地域で活躍できる新たな仕組みづくり	実施	実施	実施	○	大学生連携や地域組織のボランティア、働きかけ事業
◆新たに実施、リニューアルした公民館事業	10事業	9事業	14事業	○	町協力隊がDIY改修コミュニティスペース

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
地域や家庭とともにつくる学校運営の推進	3,923	4,411	4,167			12,501
コーディネーショントレーニングを生かした感性を育む教育活動	841	3,223	0			4,064
まちを理解し郷土愛を育むふるさと体験活動	29	72	114			215
ライフステージに応じた学びの機会の充実	1,246	2,222	1,542			5,010
青少年健全育成事業	413	170	116			699

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由	評価指標7つのうち、現時点で目標値に到達しているのは3項目。コロナ禍の教育現場への影響も大きいなかで、新たな取り組みを含めて推進してきたところ。一部は成果が出ているが未計測、未到達の指標もある。
目標値 達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠	評価指標未到達の4項目のうち、「ふるさと共育プログラムの構築」「高校生の新たな居場所の創出」は令和6年度末での到達を見込む。
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	評価指標について、目標の達成状況にバラつきはあるが、スクールソーシャルワーカーの設置による支援や小中学校を中心としたふるさと共育など、新たな取り組みの推進、継続による成果の発現が期待できる。特に子どもの教育においては、長期的な展望を持って、取り組みの継続性と積み重ねを重視していくことが肝要であると考え。一方で、社会変化による環境の変化等にも適切に対応し、ライフステージに応じて全世代が活躍できるまちづくりを実現するため、より一層、各種施策や分野課題と教育施策との施策間連携を強化していく必要がある。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して)大きく前進した C: (策定時と比較して)前進した D: (策定時と比較して)変わらない E: (策定時と比較して)後退した
			○			

4. 外部評価 (地方創生総合戦略策定委員会)

評価検証 コメント	・ふるさと共育に関しては順調に取り組みが進められ、評価できる。ふるさとを知ることとあわせて、外の世界を知ったうえでふるさとを理解することや、子どもたちが主体的に動くことも大切だと思うので、そうした視点も持って進めてほしい。 ・KPI「全国学力学習状況調査で正答率が全国平均の5割に満たない児童生徒の割合」の中間時点の実績が気になる。 ・高校生の居場所に関して、特に週末などに、町内で高校生が過ごす居場所があるか気になっている。北野サロンなどがその役割を果たしていると思うが、誰でも利用できるような居場所が大切。 ・馬耕文化を示す史料として、鷹栖の装蹄用具及び関連資料399点が、国の登録有形民俗文化財に登録されたことは素晴らしい機会なので、郷土資料の活用や資料館の整備等が進んでいくことを期待する。
--------------	--

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan2 “つながる”暮らしの充実
施策の方針	
■誰もが生涯にわたって笑顔で暮らすことができる地域の実現に向けて、多世代交流を促進し、安心して支え合うためのつながりづくりに取り組みます。 ■あらゆる活動に取り組むための基盤である、健康な状態が持続できるよう、ライフステージに応じた効果的な健康づくりを支援します。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末実績	R5年度実績見込み	達成状況見込み	説明
◆拠点型地域サロン利用者数	12,500人	5,180人	7,000人		R2～6年度の累計
◇地域住民と生活福祉相談センターが連携したアウトリーチの継続	継続実施	継続	継続	○	
◇介護認定者平均年齢	86歳	86歳	87歳	○	
◇健康に向けた行動変容を促す新たなアプローチ	実施	実施	実施	○	運動習慣化プログラムを新規実施、継続

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
地域共生社会推進事業	13,958	16,299	18,212			48,469
生活福祉相談センター運営事業	0	0	0			0
地域包括支援センター運営事業	0	4,368	4,478			8,846
生活習慣病対策推進事業	565	399	525			1,489
運動習慣化推進事業	5,410	8,623	16,337			30,370

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察					
中間時の 成果評価	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由 コロナ禍によって人が集うことが制限され、一部KPIへの影響があったが、そんな状況下でも安心できるつながりや健康づくりを模索し、新たな取組を含めて住民の暮らしの質の向上を図ることができた。
目標値 達成見込み	☒ 現状の取組の延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠 社会変化に柔軟に対応しながら、既存の体制や仕組みの良さを生かして進めてきたことから、こうした基盤的な体制を維持しつつ、新たな課題に柔軟に対応していく。
(2) 事務局（庁内）評価と今後の方向性					
評価	コロナ禍という不安定な状況下であったが、従来から取り組んでいるサロンでの交流活動や見守り活動でのつながりを生かし、住民の安全を守る取組を進めることができた。また、生活福祉相談センターになどに加え、働きかけ応援、デジタルを活用した運動の習慣化など、地域福祉の向上に資する体制づくりや取組を、進めることができた。 町民同士の交流や地域行事等への参加、就労や学習など担当部局を超えた支援体制をより効果的・効率的に行い、地域の課題、個別の課題に対して伴走による重層的な支援を継続する。				
評価	A	B	C	D	E
		○			
A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した					

4. 外部評価（地方創生総合戦略策定委員会）

評価検証 コメント	・困ったときの相談窓口が「生活福祉相談センター」と分かりやすいという点はとても評価できる。 ・相談の体制を整えたとして、大切なのは必要な支援を必要な人へいかに届けるかという成果。今後、成果が高まることを期待したい。 ・人が集い、つながる場づくりや、見守りの体制を整えることはとても大切。現状の良い取組は継続し、さらに充実を図ることを望む。
--------------	---

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan3 “次代へつなぐ”まちの未来
施策の方針	
■町民の暮らしを支える地域環境や、町民の暮らしを豊かにする自然環境を未来へと持続するため、安心、安全で持続可能なまちづくりを進めます。 ■地域の担い手となる人材の育成を進め、地域の課題を地域自らで解決していく仕組みづくりを推進し、暮らしを支える小さな拠点の形成を目指します。 ■旭川圏域など広域連携の魅力やメリットを生かしたまちづくりを進めるとともに、積極的に民間活力を取り入れた官民連携の取り組みを推進します。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末実績	R5年度実績見込み	達成状況見込み	説明
◇自主防災組織の設立	設立	未設立	未設立		地域運営組織での検討に着手済み。R6年度中に達成見込み。
◇環境基本計画の目標進捗度	100%	82%	82%		11項目中9項目の目標を達成
◆鷹栖町振興補助金活用事業	10事業	11事業	16事業	○	
◇新たな地域運営体制の構築	構築	未構築	構築	○	R5～地域運営組織による運営開始
◆官民連携で実施した新たな事業	5事業	4事業	5事業	○	

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
地域防災力の強化	300,356	2,046	24,061			326,463
低炭素化促進事業	264	1,195	1,467			2,926
住民参加のまちづくりの推進	869	758	1,063			2,690
持続可能な地域づくり推進事業	9,099	13,084	13,815			35,998
民間活力を生かしたまちづくり推進事業	0	0	0			0

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	■ 成果は向上した □ 成果は変わらなかった □ 成果は低下した				想定される 理由	地域運営組織による地域づくりや「まちLabo」といった新たな取組を推進し、住民主体のまちづくりに関して、一定の目標地点に到達している。
目標値 達成見込み	■ 現状の取り組みの延長で達成できる。 □ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 □ 目標達成は難しい				根拠	評価指標の多くで目標値に到達、または達成見込みであり、積み重ねてきた取組を引き続き、長期的な展望に基づいて継続、発展させていくことで成果が高まる。
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	新規の取組を含めて、予定していた事業を計画的に実施しており、評価指標からも一定の目標地点に到達しているため、進捗状況としては順調であると評価できる。住民主体のまちづくりの推進することを軸として、一体型の地域組織への見直し、自主防災の協議、集落支援員の導入など、積み上げてきた取組を基盤として、地域とのパートナーシップに基づく協議を継続し、協働による目指す姿の達成に向けて事業を継続する。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
		○				

4. 外部評価（地方創生総合戦略策定委員会）

評価検証 コメント	・地域運営組織のように、住民が安心して暮らせる基盤がしっかりとある、という点が大切。地域運営組織が基盤となり、今後、新しい取り組みが積み重なっていくことを期待したい。 ・地域で自主防災の取り組みが進み始めたことは評価できる。一方で、災害に対する備えが十分かという点、そこまでには至っていないと思うので、より一層の検討と充実を望む。 ・まちLaboなどで若い人材の活躍の場があることは素晴らしい。主体的に参加して事業を企画実践する町民がいて、行政がサポートするという環境は、鷹栖という地域ならではの魅力が感じられる。
--------------	---

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan4 “希望が叶う”子育てにあたたかいまち
施策の方針	
■認定こども園やNPO法人などと連携し、働くことと子育てとが安心して両立できる環境を整備するとともに、保育の質の向上に努めます。 ■妊娠期から出産、子育てまで一貫して寄り添う「子育て世代包括支援センター」を設置するなど、地域一体で子育てを見守る機運を醸成し、つながりが子育ての安心を支える環境づくりを進めます。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末実績	R5年度実績見込み	達成状況見込み	説明
◆出生数	160人	91人	121人		
◇子育て環境に満足している住民の割合	55%	未実施	未実施		
◆子育て世代包括支援センターの整備	整備	整備	整備	○	R2年度に整備

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
妊娠、出産の希望を叶える環境整備	562	1,430	5,073			7,065
産前・産後サポート推進事業	821	1,569	1,207			3,597
放課後児童クラブ管理運営事業	30,206	27,229	28,428			85,863
保育環境の充実推進事業	6,025	3,041	7,191			16,257
子育て世代包括支援センター運営事業	6,938	0	0			6,938

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察

中間時の 成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される 理由	既存の子育て支援サービスは拡充しながら、子育て世代包括支援センターも計画どおりに整備、運用を開始している。一方で、指標の「出生数」の目標達成は達成が不透明な状況。
目標値 達成見込み	☐ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☒ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい	根拠	コロナ禍においても、社会状況やニーズに迅速に対応すべく、影響を受ける子育て世代の暮らしを守る取組を進めてきた。 少子化は全国的な課題であり、地方からモデルケースとなるべく、より一層の独自の工夫、改善を図る。

(2) 事務局（庁内）評価と今後の方向性

評価	子育て世代が住みよく、安心して生み育てられるまちづくりに向けて、従来からの支援体制の拡充を進めるとともに、コロナ禍において子育て世代の暮らしを守る取組も積極的に進めた。 妊娠期から出産、子育てまで一貫して寄り添う「子育て世代包括支援センター」を軸に、地域一体となって子どもを温かな目で見守り、育む環境を確保するとともに、支援が必要な子どもたちに対しては、早期から継続して寄り添い関わる、新たな体制の整備検討を進めていく。				
評価	A	B	C	D	E
			○		
A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した					

4. 外部評価（地方創生総合戦略策定委員会）

評価検証 コメント	・子育てに関する相談件数の実績から、相談すれば解決してくれるとの信頼があることが推察され、素晴らしい環境だと感じた。 ・スクールソーシャルワーカーの配置によって、子どもたちへの支援環境が充実していると評価できる。 ・子育て世帯を対象とした支援が充実し、暮らしやすい町であることがうかがえる。 ・保育現場の労働環境に関して、やりがいを持って働きやすく、素晴らしい仕事であることが広く認知されることを望む。
--------------	--

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan5 “思いに共感”定住・移住促進
施策の方針	
■地域に暮らす人の満足度が高まり、幸せに輝くことを基盤として、住む人の姿に共感し、新たにまちに関わる人が増える、人が人を呼ぶ定住、移住を促進します。 ■鷹栖町が大切にする、町民の暮らしや思いへの共感を前提として、地域に新たな刺激や活動を生み出す移住の実現や、ふるさとに愛着を持って戻るUターンを、積極的に支援します。 ■地域に調和して魅力ある「しごと」を自ら創出できる、意欲と創造性のある人材の呼び込みを進めます。 ■地域に増える空き家を貴重な資源と捉え、空き家の流動化を促進するとともに、様々な活用の可能性を探り、人の流れの創出につなげます。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末 実績	R5年度 実績見込み	達成状況 見込み	説明
◆事業を通じた移住者数	60人	55人	61人	○	相談窓口等の支援を経た実績
◆町内での体験や案内を実施した移住相談件数	25件	15件	21件		町で把握
◆移住者が関わる起業件数	3件	4件	7件	○	町で把握
◆定着、起業した協力隊員の割合	50%	100%	100%	○	R2～任期を終えた隊員の実績
◆空き家バンク成約件数	50件	51件	61件	○	町空き家バンクの実績
◇個人居住以外での新たな空き家利活用事業	実施	未実施	実施	○	町協力隊がDIY改修コミュニティスペース

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
移住定住の促進	38,942	37,818	50,945			127,705
地域おこし協力隊事業 (募集、起業支援)	2,464	2,750	3,179			8,393
新規開業支援事業	0	4,237	2,263			6,500

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した		想定される 理由	コロナを契機とした大きな社会変化が生じたが、新たなニーズにも柔軟に対応しながら、事業を進め、KPIが概ね順調に推移している。		
目標値 達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい		根拠	大きな社会状況の変化にも都度対応し、新たな取り組みも進めながら事業を実施した結果、設定したKPIの進捗が概ね見込まれるため。		
(2) 事務局（庁内）評価と今後の方向性						
評価	計画がスタートした令和2年度からは、コロナ禍によって社会状況が大きく変化し、オンライン会議の普及やリモートワークの促進など、地方への人の流れにも従来とは異なる大きな動きが見られた。鷹栖町でこれまで取り組んだ、コミュニティ施策を土台とした「人が人を呼ぶ（住む人の姿に共感し、新たに地域に関わる人が増える）調和のとれたコミュニティ」という考え方は変えずに、新たなニーズや手法も適宜対応して、新規の取り組みを含めて、施策を推進することができた。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
		○				

4. 外部評価（地方創生総合戦略策定委員会）

評価検証 コメント	・地域おこし協力隊に関するKPIについて、次回見直し時に、より長期的な定着に結びついているか、という視点によるKPI設定を検討されることを望む。 ・移住定住は各種支援や取り組みが成果に結びついている。
--------------	---

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan6 “広がる”関係人口
施策の方針	
■ふるさとサポーターなど、町外に居住しながらまちづくりを応援してくれる人材との関係を広げ、強化します。 ■都市圏在住の若者や大学生、企業等との接点を広げ、町外からまちを訪れ、まちを応援し、まちづくりに関わる仕組みづくりを進めます。 ■創造性あふれる思考に基づく事業アイデアや豊かな人的ネットワークなど、関係人口の関わりを、新たな「しごと」を生み出す仕組みにつなげます。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末実績	R5年度実績見込み	達成状況見込み	説明
◇ふるさとサポーターとの関係を広げる新たな事業	実施	未実施	実施	○	あったかすミーティングを新規開催
◇町公式フェイスブックいいね数	1,800いいね				仕様変更によって測定不可
◆交流体験後にまちと関わりを持つ意思を示した人数	40人	32人	40人	○	インターン、関係人口の複数回参加等
◆関係人口の関わりから新たに生まれた事業数	3事業	5事業	6事業	○	町で把握

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
移住定住の促進	38,942	37,818	50,945			127,705
ふるさと鷹栖活動推進事業	2,502	2,024	1,145			5,671

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由	複数の関係機関、大学等と連携して、地方や地域づくりに関心がある若者等との関わりの機会を充実し、地域住民や地域組織の取り組みとも連携した展開へと広げることができた。
目標値 達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠	設定したKPIの進捗が概ね見込まれるため。
(2) 事務局（庁内）評価と今後の方向性						
評価	域外に暮らしながらも鷹栖町と継続的に関わる関係人口の強化を令和2年度より実施。町出身大学生との取り組み、札幌圏の大学生等若者との取り組み、慶応義塾大学SFC研究所との連携による取り組みなど、複数のチャンネルで新たな取り組みを推進し、地域の組織や人材とつなげることで、地域活動が活発化された。今後も引き続き、デジタル技術の活用も取り入れながら、域外人口が地域に関わる仕組みづくりを進めていく。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
		○				

4. 外部評価（地方創生総合戦略策定委員会）

評価検証 コメント	・大学や学生と連携した取り組みが広がっているので、地元の大学や学生との連携も期待したい。また、学生の視点をよりまちづくりへ生かすため、各種委員に登用するなど、新たな展開も検討されたい。 ・鷹栖町に関わる人がどれだけ多いかが、今後魅力的なまちを存続するための要因となると考えるので、取り組みが一層進むことを期待する。 ・一時的な関わりではなく、長期的、持続的につながる関わりに発展するように期待する。
--------------	---

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan7 “未来を拓く”農村資源
施策の方針	
■農業生産基盤の強化と、担い手の育成確保に努めます。 ■女性農業者の一層の活躍や、新規作物や栽培方法の新たな可能性を広げるチャレンジを支援します。 ■地域特性や環境を最大限に生かし、多様性に富んだ農業を推進して、本町の農業ブランドの魅力と可能性を高めます。 ■農村資源や自然環境を生かした体験型観光を推進します。 ■地域の農産物を生かした産品開発やPR、販路拡大の取り組み、事業者連携を支援します。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末実績	R5年度実績見込み	達成状況見込み	説明
◆新規就農者	10人	20人	21人	○	
◆新規拡充作付農産物	5品目	0品目	0品目		試験栽培に着手
◇野菜団地事業の実施	実施	実施	実施	○	
◇スマート農業普及に関する研究事業の実施	実施	実施	実施	○	
◆女性農業者が関わる新たな事業の実施	実施	実施	実施	○	
◇生産者団体が取り組む体験交流の実施	実施	実施	実施	○	町内保育園、小中学校での農業体験
◇農業や自然資源を生かした体験型観光実施箇所数	12箇所	7箇所	7箇所		
◆外部機関と連携して新たに創出、ブラッシュアップした地場産品数	3品	3品	4品	○	
◇町内で地場産品を購入しやすい新たな仕組みの構築	構築	構築	構築	○	

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
地域農業活性化総合支援事業	8,270	4,372	15,096			27,738
農業担い手確保対策事業	28,500	37,119	81,678			147,297
農業交流センター管理運営事業	10,228	10,094	10,135			30,457
農業体験交流推進事業	9,757	10,094	10,135			29,986
観光資源活用ネットワーク化推進事業	3,860	6,578	5,295			15,733

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した		想定される 理由	7項目の評価指標の目標達成が見込まれ、計画していた体制の構築を中心に、順調に事業を進めることができた。		
目標値 達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい		根拠	新たに進めてきた体制の構築、事業の実施を土台として、さらなる成果の発現に向けた事業を展開していく。一部、指標の達成見込みが不透明な項目があり、関連する取組事業については、事業見直しを含めた検証が必要。		
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	新規就農者の支援体制を中心に、計画していた体制構築や新規事業を順調に手掛けていくことができた。引き続き、第三者経営継承事業や野菜団地事業の推進によって、制度や環境の充実を図る。また、デジタル技術を活用したスマート農業に関して、農業者や関係機関との協議を積み重ねており、これを土台に今後の事業のブラッシュアップを図る。 一部、評価指標の達成が見込めていない項目があるが、長期的に必要な取組分野であり、新たな動きもあることから、検証、改善を重ねて、より良い事業の推進を目指す。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して)大きく前進した C: (策定時と比較して)前進した D: (策定時と比較して)変わらない E: (策定時と比較して)後退した
		○				

4. 外部評価 (地方創生総合戦略策定委員会)

評価検証 コメント	・野菜栽培の普及分野において、健康づくりや子育て世代のニーズと合致するような視点で検討を進めてはどうか。鷹栖町がこれまで進めてきたまちづくりと親和性がある。 ・企業等の外部機関との連携を進めているようだが、新たな連携先の確保、より一層の展開を期待したい。 ・社会変化のスピードが早く、特に農業も大きく変化していくなかで、トライ&エラーのように、取り組みながら軌道修正を図っていく姿勢が大切。 ・国の方向性に準拠するほか、鷹栖町農業の将来展望として、できるだけたくさんの農業者で支える未来を期待したい。 ・次期KPIの見直しに際しては、可能な限り定量的な、数値化が可能な目標値の設定を検討されたい。
--------------	--

重点施策評価検証シート【2023年度評価検証】

項目	Plan8 “活力高める”商工業
施策の方針	
■商工会や金融機関などと連携し、商工業者の支援を進めるとともに、経営意欲の高揚や後継者育成の取り組みを支援します。 ■チャレンジショップなど新たな挑戦に取り組みやすい環境を確保し、町内での起業を積極的に支援します。 ■空き店舗の利活用や買い物環境の整備など、官民連携などにより様々な視点から中心市街地エリアの魅力を高め、にぎわいのある商店街を創出します。 ■多様な働き方や就業ニーズに沿った雇用のマッチングを実現する仕組みづくりを進めます。 ■地域の強みを生かして事業者の誘致に取り組み、産業間連携の推進により地場産業の価値を高めます。	

1. 評価指標（KPIの「◇は2024年度時点」「◆は2020～2024年度の累計」で達成を確認）

評価指標	目標値	R4年度末実績	R5年度実績見込み	達成状況見込み	説明
起業実績 【新規、継業、事業拡大】	5件	6件	9件	○	
チャレンジショップによるトライアルの仕組みづくり	構築	構築	構築	○	
金融機関等と連携した新たな創業サポート体制の構築	構築	構築	構築	○	
中心市街地での起業実績 【新規、継業、事業拡大】	3件	1件	2件		鷹栖地区市街地での実績
中心市街地エリア基本構想の策定	策定	策定	策定	○	R4に策定公表
多様な世代の就労をサポートする新たな仕組みの構築	構築	未構築	未構築		R6に構築見込

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
鷹栖市街地エリアマネジメント推進事業	5,421	6,774	5,889			18,084
新規開業支援事業	0	4,237	2,263			6,500
起業に向けたトライアル支援事業	0	0	0			0
継業に向けた調査研究事業	0	0	0			0
商工振興事業	38,401	44,183	19,708			102,292

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由	目標としていた体制の構築が一定程度進めることができ、コロナ禍で商工業には厳しい時期でもあったが、起業実績なども一定の水準に達した。
目標値 達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠	事業の進捗、成果について、評価指標の到達状況から、ある程度順調に経過していると考えられる。
(2) 事務局（庁内）評価と今後の方向性						
評価	コロナ禍による社会情勢の変化等により、進捗に若干の遅れはあったが、計画していた事業の実施や体制の整備は、一定程度、前進することができた。また、この期間、事業者へのコロナの影響は大きなものがあったが、ニーズを把握しながら対策を講じてきた。今後は官民連携や施策間連携を一層強化することで、一層の成果の波及を図りたい。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
		○				

4. 外部評価（地方創生総合戦略策定委員会）

評価検証 コメント	・中心市街地の取り組みに関して、フルスペックでそのまま進めるのではなく、町民ニーズに沿った、シンプルで分かりやすい機能に整理されていくことを期待する。また、「歩行空間づくり、にぎわいを増やす」という点についての取り組み強化を期待したい。 ・市街地の取組のなかで、ハード事業ばかりでなく、人のつながりや地域活動をどのようにデザインしていくかという取り組みにも期待する。
--------------	--